





主な足跡など

元号・年	西暦・年	できごと
万延元	1860	河村鹿蔵は、11月17日、浮穴郡上灘村灘町(現在の伊予市双海町灘町)の河村菊次郎常茂の三男に生まれる。父、常茂作の農業年中行事の絵馬が、双海町天一神社に奉納されています。
明治5	1872	河村鹿蔵は12才の時、山口県萩の窯元で、陶芸の修行を始める。
明治11	1878	河村鹿蔵は18才の時、帰郷して三島町の高橋陶器製造所の職長となる。
明治14	1881	河村鹿蔵は21才の時、土佐の政治家、林有造に乞われて、有造の妻の里(現在の宿毛市小筑紫町湊(こづくしちょうみなと))で焼物の指導。有造より、江山の号を使うよう薦められ、「江山」を名乗るようになった。
明治20	1887	河村鹿蔵は27才の時に高知から帰郷し、砥部の梅野製陶所で働く。腕がよく破格の待遇であったという。
明治26頃	1893頃	この頃、河村鹿蔵は、妻鶴代と長男河村登を連れて、郡中町大字湊町字本町75番戸の榎家を継ぐ。 この場所で、郡中での江山焼を創始。
明治28	1895	砥部焼歴史資料によると、榎鹿蔵はこの年、35才で江山焼を創始。
明治29	1896	12月、榎鹿蔵の母、真木タネ 没。 謄本には、湊町75番戸の榎家の宅地118坪は、「12月24日、家督相続により伊予郡郡中町大字湊町140番戸榎鹿蔵の為め所有権を登記す」と記載されています。
明治33 あるいは 明治41	1900 あるいは 1908	榎鹿蔵は居宅と窯を湊町殿町に移す。
明治36	1903	後の大正天皇は、江山焼狸型手あぶりをお買上げにな

			る。
明治 41	1908	12 月、湊町 粘土細工師真木鹿蔵は江山焼山姥金時之像 1 体を伊予稻荷神社に奉納。箱書には、「当社奉額岸駈真筆山姥金時哺乳の図を模造す その作緻密優秀を持って宮内省御買上の栄を賜る」と書かれています。	
明治 42	1909	3 月 26 日、伊藤博文は郡中町彩浜館に来遊。江山はお庭焼きを行い、博文は、江山焼茶碗 2 点、酒器 1 点に染筆。	 <p>伊藤博文染筆江山焼抹茶茶碗 (伊予市教育委員会所蔵)</p>
明治 43	1910	8 月、榎 江山は、河東碧梧桐、村上霽月、下村為山、三由淡紅 (みよしたんこう) 等を彩浜館に招き「お庭焼き」を行う。	
大正 11	1922	後の昭和天皇は江山焼をお買上げになる。	
〃	〃	萬翠荘は、旧松山藩主の子孫、久松 定謨 (ひさまつ さだこと) 伯爵が、別邸として建設。記念に前庭には、地元企業団から砥部焼の鶴 1 対が、銀行団からは海亀 1	

			<p>対が寄贈されました。その海亀は村上霽月をとおして江山へ依頼されたものです。</p> <p>なお、江山はこの時、2対の海亀を制作し、1対は萬翠壮へ、残りの1対は霽月に贈り、霽月邸の庭に置かれたそうです。</p> <p>戦争などにより、海亀は現存していません。</p>
昭和5頃	1930頃	榎	<p>江山は、この頃までに、湊町の大師堂山門にある江山焼金剛力士像1対を制作していた模様。</p> <p>江山の孫、鈴木艶子氏は、「湊町殿町の江山の窯には、金剛力士像のような大型の作品は入らないからどこか他所の窯で焼いていただいたと思います」と話しておられました。</p> <p>江山焼金剛力士像1対は、伊予市指定文化財になっています。</p>
			
昭和7	1932		<p>10月7日、愛媛県立伊予実業学校（現在の愛媛県立伊予農業高等学校）は、江山焼義農置物（義農作兵衛の陶人形）を購入。</p>
			
昭和11	1936	榎	<p>1月10日、江山は自宅で永眠する。享年77。</p>

			墓は増福寺にある。
	平成 29	2017	郡中二百年祭記念式典において、郡中の明治期に地域の発展に尽くした功績により榎江山に郡中名誉町民賞が贈呈されました。

江山焼



江山焼布袋

江山焼大黒大根



郡中まち元気サロン来良夢（こらむ）の
江山焼展示コーナー



江山焼伊予節銘々皿

郡中まち元気サロン来良夢（こらむ）
の村上霽月句入り江山焼菓子器
霽月の句「鶯に十日の雨の晴れにけり」

